

令和元年度「テレワーク活用ネットワーク会議」第1回会議の議事概要

日時 令和元年9月19日(木) 13:30~14:30

場所 テレワークセンター徳島

出席委員(5名)

副会長	米澤 和美	徳島県社会保険労務士会会長
委員	佐々木 雅信	徳島県中小企業家同友会事務局長
委員	川原 雅好	株式会社エル・イズ・ビー
委員	竹内 真由美	フリーランス
委員	清瀬 由香	特定非営利活動法人チルドリン徳島

猪子会長、田澤委員、葛籠委員は欠席。

米澤副会長

- ・デジタル化が今一番進んでるのが社会保険関係。2021年3月には、社会保険がマイナンバー管理で、ID、パスワードで全部申請ができる工程になっていて、私たちがそれについて行かないといけない。
- ・ひきこもって出てこれない人たちをテレワークではどうなのか。勤めてても多い。うつ病だとかでそこから家に引きこもって、出て来れず、次の就職もできないという方が増えてるような気がする。

(中小企業の取組状況について)

佐々木委員

- ・テレワークで一番多いのは経営者で、社内では、特定の仕事、会社の仕事をしっかりと切り分けたところが多い。会社からは、課題として、ネット環境におけるセキュリティ、自宅で行う場合の回線ソフトやパソコンの物理的な問題。後は労務管理をどうやるか、結局、就業規則を整備していないと、後には続かないとの意見が出ている。
- ・電子ツールを使って、作業員が現場に出向いたりする場合、どういう状況かをスマホで撮って、それをみんなで共有する会社があって、今までイメージがバラバラだったのが、統一できるようになったというのがあった。それを聞いた人が「うちでもやろうか。」てなって、少しずつ積み重なっていけば、他の課題も見えて、テレワークにも繋がる。

- ・ 5日間の有給消化は、経営課題になっていて、10人ぐらいたと一人一人がバラバラに休むと、みんなが揃う時は少なくなる。その時の情報共有一つとして、テレワークが近いうちになるのかなと思っている。

川原委員

- ・ 建設現場などの現場仕事の人を見ると、購入を決めるのは、その企業のシステム開発部門や業務改善を主導でしているところが多い。現場だったら、申し送りや対面で集まって紙の処理準備しなければいけないことを、スマホで写真撮って、タスク依頼したら終わりみたいな感じになる。
- ・ 働き方改革があるので、積極的に取り組もうとしている会社は多く、チャットだけじゃなく、定時になったらパソコンをシャットダウンして、ここから残業したい人は、申請したらまた1時間パソコンを使えるといった、労務管理につながるソフトの情報も結構多い。

竹内内員

- ・ テレワーク導入には、資料の電子化だとか、パソコンが使える環境が用意できるか、後は社内システムの整備が必要というところが多いと思う。
- ・ 今までには仕事を渡されたら、ある程度の時間を使って仕事を終えるというスタイルだったが、今は時間が来たら終えなければいけないので、残りの仕事を誰かに振らないといけなくなる。大きな会社は、たくさんサポートしてくれる人がいてそういう環境が作られてるいるが、小さい会社だとこの仕事は受けないでおこうとか、今は無理だとか、時間はあるのにできないことがある。これは環境ということではなく、精神的なことだと思う。

清瀬委員

- ・ テレワークは、私たちが見てる中で、子育て、介護の人は一握りで、どちらかというと業務改善。その一歩は、データの整理だったり、繋がるところだったり、どういう風な品質か、いつまでやったら良いかをオンラインで伝えることで、お互いに確認し合いながらできる。
- ・ 障がい者雇用をいくら増やそうといっても、コーディネートする人とその本質が分かる人、障がいはいろんな特性があるので、どの特性でこの仕事がマッチするとか。コミュニケーションもそうだし、いろんな今までない形が、必要になるんじゃないかと思う。